

令和5年度 学校評価書



■学校教育目標

学校名 北海道留辺蘂高等学校

学校関係者

学校評議員

5名

優れた教育機会を提供し、社会で自立し共生する力を育む

1 育成を目指す資質・能力に関する方針

- (1) 基本的な生活習慣を確立し、健康・安全で活力ある生活を送る基礎力
- (2) 学ぶことや働くことの意義を理解し、自ら学び考える探究力
- (3) 自己に与えられた役割を理解し、責任を持って果たす実践力
- (4) 自己や他者のかけがえのなさを理解し、協働して課題の解決を図る人間力

2 指導上の重点事項

- (1) 基礎的・基本的な学力の確実な定着を図る。
- (2) 総合学科の特色を生かし、主体性を育む指導の充実を図る。
- (3) 教育活動全体を通してSDGsの視点を取り入れ、教科の枠を超えた指導の充実を図る。
- (4) 他者を尊重し、協力・協働しながら課題を解決する能力の育成を図る。
- (5) 「地域の学校」として各機関との連携を強化し、自己有用感・達成感の向上を図る。
- (6) ダイバーシティ留辺蘂高校として職員の英知を集結した学校経営を図る。

【自己評価の適切さ】

- A 適切な評価である
B ほぼ適切な評価である
C やや不適切な評価である
D 不適切な評価である

【改善に向けた取組の適切さ】

- A 十分な効果が期待できる
B ほぼ十分な効果が期待できる
C あまり効果が期待できない
D 全く効果は期待できない

3 自己評価結果及び学校関係者評価【A：十分である B：おおむね十分である C：やや不十分である D：不十分である】

A (4.0～3.5)、B (3.4～2.5)、C (2.4～1.5)、D (1.4～1.0) ※A=4 B=3 C=2 D=1で換算

領域	重点事項	今年度の目標	目標達成のための評価の観点	自己評価		改善・充実の方策	学校関係者評価	
				取組の適切さ	達成状況		自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
教育活動	学習指導	1 基礎学習の発展充実	①基礎学力向上を目指した基礎学習等の取組を継続し、より充実させる。	B	B	■ソーシャルスキルおよび教科の基礎力を養うための朝学習をさらに推進する。	B	B
		2 コミュニケーション能力の獲得を目指した学習活動の展開	②各教科、分掌、年次等様々な立場から学習の動機づけに積極的に努め、基礎的学習・発展的学習への意欲喚起を図る。	B	B	■主体的・対話的で深い学びの視点から、ICTの効果的活用も含めて、授業改善に努める。	B	B
		3 SDGsを基軸として主体的に学ぶ指導の充実	③キャリア教育やSDGsの理念を十分に理解し、それらに基づく授業を組織的、体系的に実践する。	B	B	■指導上の課題解決につながるよう、授業計画にSDGs項目を反映させる。	B	B
		4 評価方法の工夫、改善	④教科・科目で生徒のどのような力を伸ばそうとするのかをより明確にした指導と観点別評価を推進する。各教科毎に見直し、改善を図るとともに全体で共有する。	A	B	■学習の成果を的確に把握し、「指導と評価の一体化」を図るとともに、教科内および全体での評価方法の改善につなげる。	A	B
		5 生きる力としての学力の獲得	⑤全教職員が共通して、生徒が安心して学習に取り組むことのできる授業を行う。	A	B	■生徒理解に努め、全体での情報共有により、「安心・安全」に学習できる授業づくりを推進する。	A	A
	学校関係者の意見		ICT教育は「学びの道具」として活用したときに、より効果が発揮できる。授業の改善・充実を期待する。					
	生徒指導	1 高校生としての自覚ある基本的生活習慣の確立	①全教職員が気持ちの良い挨拶の励行や、生徒の基本的な生活習慣の確立に向けた指導を継続して行う。	A	B	■挨拶の大切さを生徒に伝え、教職員が気持ちの良い挨拶を推進する。 ■基本的な生活習慣を保護者と連携し継続的に指導する。	A	A
		2 いじめ根絶を目指した心の教育の充実	②組織的にいじめの未然防止に努めるとともに、アンケートや生徒との対話によるいじめに関する情報収集に努める。	A	A	■学校生活や家庭生活の中で、いじめやいじめの兆候がないかをていねいに観察し検証するとともに、保護者と連携して予防や対策を推進する。	A	A
		3 通級指導等、特別支援教育に係る研修の充実	③効果的な支援ができるよう、外部機関とのより一層の連携を図り、教職員が知識理解を深められるよう校内研修を充実させる。	A	B	■教職員の共通理解を心がけ、外部の専門機関と連携しながら、きめ細かな支援ができるように推進する。 ■継続的な研修により知識・理解を深め、より具体的な支援を行う。	A	A
		4 高校生としての規範意識の涵養を図る	④全教職員が「生徒理解」と「進路指導」を指導の柱とするゆるぎない信念と共通 実践のもと、生徒の自律の心や社会で自立し共生できる力を育む指導を行う。	B	B	■スムーズに卒業後の生活を送れるように、高校生活の中でマナーや公共について指導を行う。	B	B
	学校関係者の意見		学校生活のルールやマナーは以前より守る生徒が多くなった。少人数を生かした取組の充実を期待する。					
	進路指導	1 総合学科の特色とSDGs理念に基づいた特色あるキャリア教育の推進	①これまで実践してきたキャリアプログラムの内容を精査し、さらに充実したプログラムの構築を図る。	B	B	■総合的な探究の時間の指導計画を改善し、2年次のうちから3年次の課題研究を見据えた活動に着手させる。	B	B
		2 生徒の実態に応じた進路指導の体制構築	②生徒一人ひとりの進路目標の実現に向け、個別のニーズに応じた指導計画を立て、教職員が一丸となって指導・支援する体制を作る。	B	B	■インターンシップや進路希望調査、進路相談員の活用などによって適性の把握とよりよいキャリアプランニングを行い、生徒の進路実現を目指す。	A	A
			③早い段階から、自己実現に向け積極的に自分を高めようとする姿勢を育てる。	B	B		A	A
		3 グローバルな視野を育て、共生社会の実現を意識付ける	④全職員が当事者意識を持って得意分野を生かすことで、学校及び地域の人材や施設を活用した効果的な教育活動を実践する。	B	B	■施設での実習、外部講師による授業、課題研究の全校的な指導体制などにより、広い視野を持つ生徒の育成に努める。	B	B
	学校関係者の意見		生徒は成長している。100%進路実現しているのは教員の指導が大きい。総合学科の中の実習の授業が登校の意欲をかき立てている。					

健康・安全指導	1 生徒理解の深化を図るため、より人間的な触れあいの充実	①生徒理解ツール等の効果的活用に努め、全教職員が生徒の特性や悩みについて情報を共有し、カウンセリングマインドを重視した関わりを日常的に行う。（アセス、「ほっと」の計画的実施、面談カルテの活用）	A	B	■生徒理解ツール（アセス、「ほっと」）のデータをより効果的に活用する。 ■生徒が相談をしやすいような雰囲気や体制をつくる。	A	A	
	2 自己の健康を尊重した生活習慣の確立	②生徒自身が自己の生活習慣を振り返る機会を設け、健康で安全な生活を送ろうとする姿勢を育む。（生活点検表の計画的実施とふりかえり）	A	A	■生活点検表を計画的に行うと共に、そこで得られた情報をもとにH Rでの全体指導・個別指導を心掛ける。	A	A	
		③AⅠとの関わり方や情報モラルに関する生徒の意識向上を図るため、外部講師の活用及び指導内容の可視化の工夫・改善を図り、生きる力の育成を推進する。	B	B	■各教科の指導や外部講師による講演でAⅠとの関わり方や情報モラルに関する指導を推進する。	B	B	
	3 つながりを深め、生徒相互に安心で安全で豊かな生活の提供	④地域との共生を意識して、部活動、グリーン作戦やボランティア活動など地域とつながる機会を大切にする。	A	A	■グリーン作戦を継続して実施する。地域との関わりを意識した活動を教科や学校行事において行うことを意識する。	A	A	
	4 伝染病の予防、蔓延防止に家庭や地域と連携を深める	⑤コロナウィルス等感染症対策として正確な情報収集と発信、速やかな行動を行う。	A	A	■伝染病の予防方法や感染拡大防止策について家庭や地域と連携を強化する。	A	A	
学校関係者の意見		生徒に向けて多様な話をすることは大切。時間を作り、生徒と対話することを継続してほしい。						
保護者・地域・大学等との連携	1 より積極的な広報活動の推進	①学校の特徴をより広くPRできるように、広報の時期や方法、HPを工夫する。	A	A	■ホームページを活用し、教育活動が見えるように情報を発信する。	A	A	
		②地域の施設や学校との連携を行い、更なる内容充実に向けた検討をする。	A	A		A	A	
	2 地域の教育力の活用と連携の強化	③「伝えるべき」情報の提供にとどまらず、保護者にとって「知りたい」情報の発信に努める。	B	B	■学校からの情報である「学校だより」や「ホームページ」、「学級通信」の内容を精選し、発信する。	B	B	
		3 保護者の知りたい情報を把握するための具体策を立てる	④定期的・日常的な面談を可能な限り増やし、情報交換を通して互いの信頼関係の構築に努める。	B		B	B	B
	4 地域との信頼関係に基づいた開かれた学校を目指す	⑤連携先との連携内容の充実に向けた協議・検討を重ね、今後の教育活動の見通しに役立てる。	B	B	■授業や行事等で地域と連携し、開かれた学校を実現する。	A	A	
学校関係者の意見		地域との連携の充実をさらに進めてほしい。学校祭などの学校行事に外部の方が来校するのは、大切なこと。						
学校運営	組織運営	1 組織全体の協働体制を大切に業務に専念する	①生徒の体験・探究活動の円滑な実施に向けて、分掌・年次の枠を越え、互いに連携し合い、教職員一体となった教育活動を実践する。	B	B	■総合的な探究の時間の内容について検討し、学校全体として取り組む。	B	B
		2 各人の教育に対する「思い」が活かされた組織マネジメントの推進	②各分掌・年次の計画に加え、教科・個人の計画と学校評価を一体化させ、PDCAサイクルを意識した教育活動を行う。	B	B	■今年度と同様に、教職員の連携を意識して、PDCAサイクルのもと、教育活動を実践する。	B	B
			③報告・連絡・相談を密に協働性を高め、全職員が超過勤務月45時間以内にす。	B	B	■業務の平準化にむけて、コミュニケーションを密にし、お互いの業務を補完する。	B	B
			④学校のガイドラインと個の多様性を認めることの両立を図る実践知を集積する。	B	B		B	B
	学校関係者の意見		授業に地域住民が参加し、生徒とともに学びができる機会があれば効果的な教育ができる。					
教職員の資質能力向上等	1 各種研修への積極的な参加により自己の資質向上を図る	①課題解決や教員個々のキャリア形成を目指し、積極的な教育活動を展開する。	B	B	■校内研修の計画的な実施、各種研修会への参加により教員としての資質の向上に努める。	B	B	
	2 各種法規・法令の研究	②学校課題に沿った校内研修テーマを設定し、その内容・方法の充実を図る。	B	B	■学校課題を明確化し、それを解決していく校内研修を実施する。	B	B	
	3 相互牽制力活用	③勤務規律に関する情報提供と研修を行うとともに、組織の相互牽制を十分に機能させる。	B	B	■勤務規律に関する情報などを朝の打合せや定例職員会議で、適宜周知し、啓発する。	B	B	
	4 計画的業務推進	④一人一人が自身の働き方を見直すとともに、適切な業務計画を立て組織全体で勤務時間削減に向けた取り組みを継続する。	B	B	■ICTの利用や業務のスクラップアンドビルドを意識した教育計画を実践し、勤務時間の削減を図る。	B	B	
学校関係者の意見		業務の効率化を図り、働き方改革を進め、心身ともに健康な状態で教育活動を行ってほしい。						
4 自由記載欄								
・次年度は2・3学年のみになり、見直し等が必要になりますが、これまで大事にしたことを継続、発展していくことを期待します。 ・閉校まで残された2年間で、在校生が胸を張って社会に飛び立って行くように願うばかりです。教職員の皆さんも一丸となって「有終の美」を飾ってください。 ・今年度の総合学科発表会での国際ゼミはフェアトレードをテーマに研究したが、評価が高かった。総合学科ならではの取組だった。今の教育では「考える力」が必要。								